

研究報告書

青少年団体活動に関する親の意識調査

～団体活動のこれからに向けて～

兵庫県青少年団体連絡協議会 調査研究委員会

2014年3月

2013 年度「青少年団体活動に関する親の意識調査」

『青少年団体とは、一つの理念を持って、子どもや若者を対象に継続的に活動やプログラムを実施し、それらを通して青少年の社会性や人格の形成に取り組む団体です。』

本調査の調査票の文頭に書かれている言葉です。青少年を対象に、青少年とともに、さらには青少年自らが自主的、主体的に実践する青少年活動は、常に時代や社会の在り様を背景に活動が展開されてきました。青少年団体はその当時の強い期待やニーズから生まれました。兵庫県青少年団体連絡協議会には現在、22の加盟団体がありますが、中には100年以上の歴史をもつ団体もあります。

今回の調査は、学童期の子どもを青少年団体の活動に参加させている親を対象としています。設問では、今日の子どもたちの様子とともに、青少年団体活動への思いや期待を尋ねています。団体活動に携わる指導者、育成者また関係する皆さん方にはぜひ関心をもってご覧いただき、今後の取り組みに少しでもお役立ていただければと願っております。

2014年 3月

兵庫県青少年団体連絡協議会

目 次

〈1〉 調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	2 ページ
〈2〉 子ども現状について・・・・・・・・	3 ページ
〈3〉 保護者から見た青少年団体や活動のイメージ・・・・・・・・	7 ページ
〈4〉 親の期待と子どもの変化について・・・・・・・・	8 ページ
〈5〉 他の調査との比較から・・・・・・・・	12 ページ

提 言

〈1〉 調査の概要

1. 今回、調査にご協力いただいたのは ～フェイスシートから～

この調査にご協力いただいた対象は、兵庫県青少年団体連絡協議会の加盟 22 団体の中から、主に小学生児童で団体の会員として日常的に活動参加、もしくは団体の活動や行事に現在まで継続的に参加している経験のある児童の保護者（親）となっている。

該当の児童を会員、また対象として事業や活動を展開している団体は 10 団体であった。その団体を経由して子どもを持つ親に調査票を渡し、その場回収または後日回収し、全体集計を行った。配付総数 550 に対し、回収は 388、回収率は 71%であった。

本調査は、兵庫県内の青少年団体活動に参加、活動する児童、青少年の保護者が青少年団体活動や団体に対してどのような思いや意識、また期待をもっているのかを調査したものである。

○回答者の性別	男性 26.0%	女性 73.7%	未記入 0.3%
○回答者の年齢	20 代 1.3%	30 代 28.3%	40 代 60.6%
	50 代 6.7%	60 歳以上 2.3%	未記入 0.8%
○子どもの性別	男子 61.8%	女子 37.4%	未記入 0.8%
○子どもの学年	1 年 8.8%	2 年 14.9%	3 年 14.2%
	5 年 15.2%	6 年 18.3%	幼児 0.5%
			未記入 8.0%

2. 同居者について

388 の調査票の内、未記入者を除き、両親が同居していない家庭の実数が 117(30%)件あった。その内、母子家庭が 84(全体の 22.7%)、父子家庭が 27(同 6.9%) と全体の 30%近くを占めている。単身赴任の家庭やその他の事情が背景の記載、また単純な記入ミスも考慮してはみたが、今日の家庭事情の見落とせない複雑な一面も示しているのでは、との見方もできるのかもしれない。

しかし、こうした家庭状況こそが、子どもたちの青少年団体活動への参加動機や期待につながっているのではないかとの推察もまた十分考えられるのである。ある団体からの情報では、ファミリー対象のプログラム（キャンプ、スキー等）で参加の家族はその約 40% 近くが母子、父子家庭の参加となっているとのことだった。

こうした家庭状況も背景として認識しながら、今回の調査データの分析に入る。

〈2〉子どもの現状について

1. 親子のコミュニケーションは豊かである(設問2)

親子の対話は「よく話をする」と「まあまあ話をする」を合わせて 95.2%あり、話をしている。男親は 90.1%、女親は 96.9%で女親の方が話をしているのは当然であろう。

親の世代別にみると 20～30 代が 94.8%、40 代が 96.1%、50～60 代が 88.5%と 20～40 代に比べ年齢の高い親の方が少なくなっている。子どもの学年で比較すると低学年が 97.9%、高学年が 93.8%、子どもの男女別では男子が 92.5%、女子が 100%になっており、想像通りの結果となっている。

2. 将来子どものなりたい職業を知っている親が多い(設問3)

コミュニケーションが豊かなので、子どもの将来についても知っている親は 70.9%と多い。知っているとした職業は種別で並べるとパティシエ（料理人含む）36 人、技師・もの作り 35 人、プロスポーツ選手 31 人（サッカー15 人、野球 7 人、プロスポーツ選手 9 人）、医師・看護師・薬剤師 19 人、消防士・警察官 16 人、様々な乗り物の運転手 14 人の順になっている。全国的に紹介されるデータの「スポーツ選手」「芸能人」という職業の数より「教師」「パティシエ」「医師・看護師・薬剤師」「運転手」という身近で現実的な職業イメージが多いことが興味深い。29.1%の親は「知らない」と回答しているが、子どもの学齢によって「職業」「就職」という話題が早すぎたり、遠いものであったりすることは想像できるので、一概に親を責めることはできない。

3. 親の子どもの頃より「遊ぶ機会」や「居場所」、「自然の中での遊び」は減っているが、「塾やおけいこ事に行く時間」は増えている(設問4)

「外で遊ぶ機会や時間」は減少とやや減少を合わせて 86.1%になっている。男親 82.2%、女親 87.4%で女親の方が少し多くなっている。また、親の世代別では 20～30 代 80.9%、40 代 87.2%、50～60 代 94.3%と親の年代が高くなるほど多くなっている。

「近所で楽しく遊べる場所や居場所」も 79.1%と減少している。男親 74.2%、女親 81.1%と女親の方が多くなっている。男子 77.1%、女子 82.8%と女子の方が多くなっている。

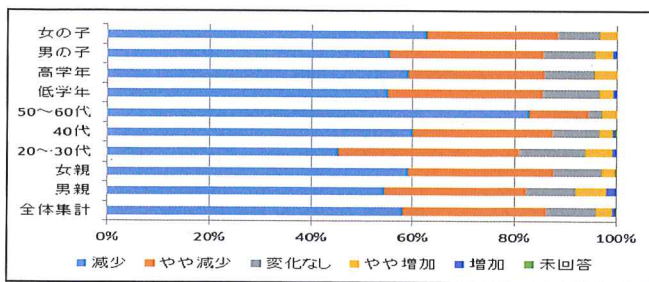
「自然の中で遊んで過ごす」も 85.3%と減少している。男親 88.1%、女親 84.6%と男親が少し多い。世代別では 20～30 代 80.8%、40 代 85.9%、50～60 代 97.2%(減少との回答は 74.3%)50～60 代はかなり減少しているのとらえている。

「学校帰りの道草、寄り道」64.4%、「近所の人に注意されたり叱られること」84.5%、「お年寄り年少者等、世代の離れた交流」58.3%と減少したと答えている。

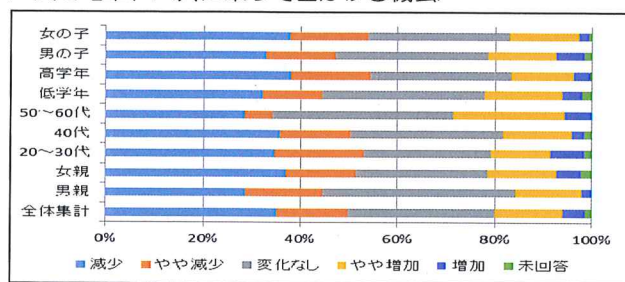
世代の離れた交流をはじめ、家庭外の地域における関係性を見ると「地域行事への参加」は 44%が減少と答え、自治会や子ども会などの参加率が減少していることが想像できる。また地域行事への参加などを機会として保たれてきた「世代間交流」についても減少し、家庭の核家族化のみならず地域においても世代間の交流の場が失われつつあるといえる。ただ、「変化なし」の回答も 30～40%と高く、まだキープされている、あるいはキープしようとしている様子が伺える。これらは、団体活動に参加している子どもたちの特性であるかどうかは分からないが、そのような意図が家庭の中にあるようである。「塾やおけいこ事に行く時間」は増加とやや増加を足すと 77.1%と増加している。外遊びや自然の中での遊び、居場所がかなり減少している反面、塾・けいこ事が増加している。子どもの発達課題で見たとき、また、昨年度の「子どもの頃の体験が大人になってどう生きているか」の調査結果と照らし合わせると、子どもの社会環境の変化に対応する措置が必要である。

子どもの家庭における人間関係性と家庭外における人間関係性の変化に着目して結果を見ると、家族との団らんや家庭での家事手伝いについては大きな変化がなく、やや減ってはいるものの基本的にはある程度、家庭での団らんや役割分担はキープされている。

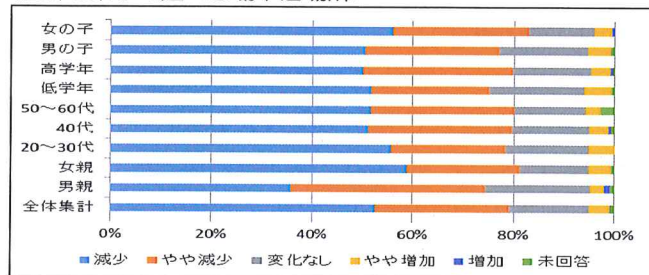
(外で遊ぶ時間や機会)



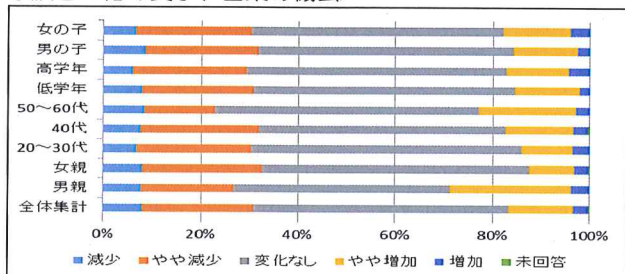
(一人で電車、バスに乗って出かける機会)



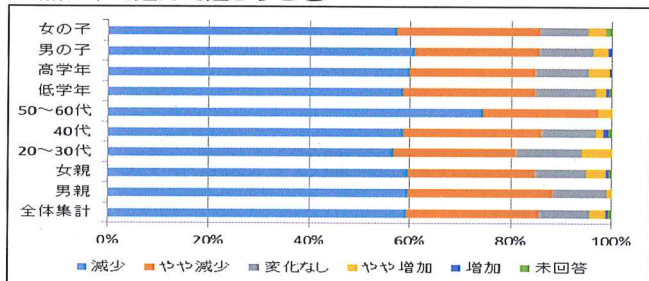
(近所で楽しく遊べる場や居場所)



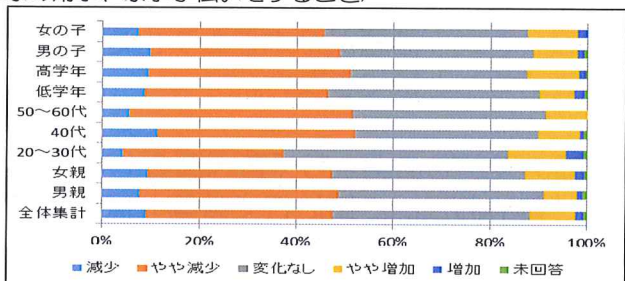
(家族と一緒に食事、団欒の機会)



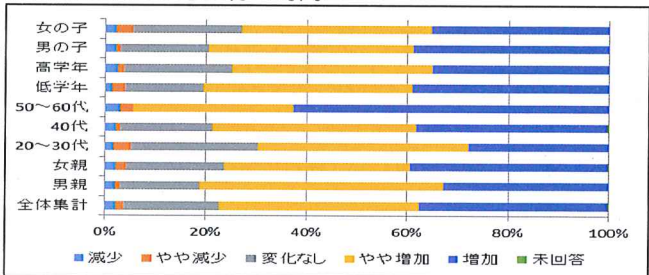
(自然の中で遊んで過ごすこと)



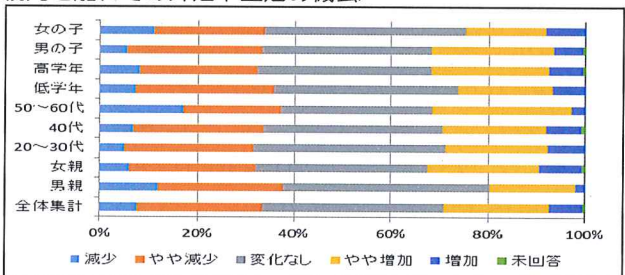
(家の用事、家事手伝いをすること)



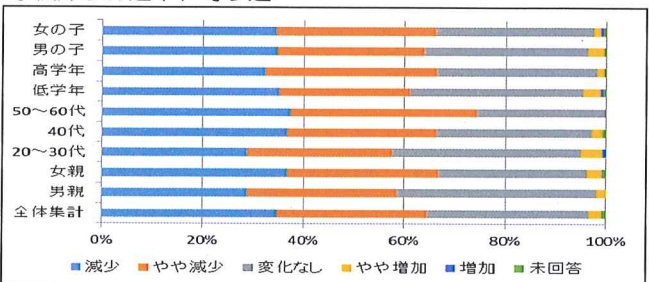
(塾やおけいこごとに行く時間)



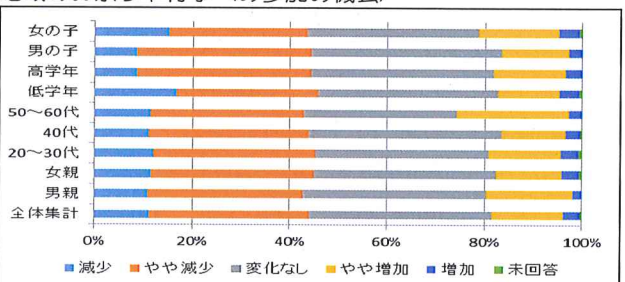
(親元を離れての外泊や生活の機会)



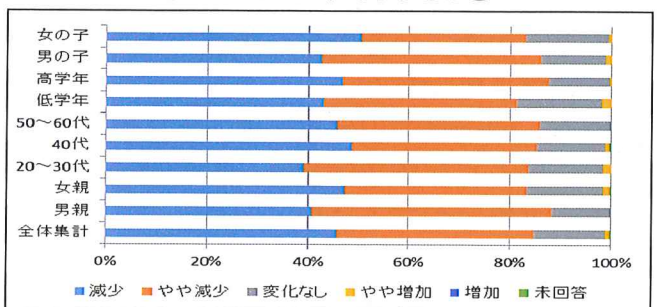
(学校帰りの道草、寄り道)



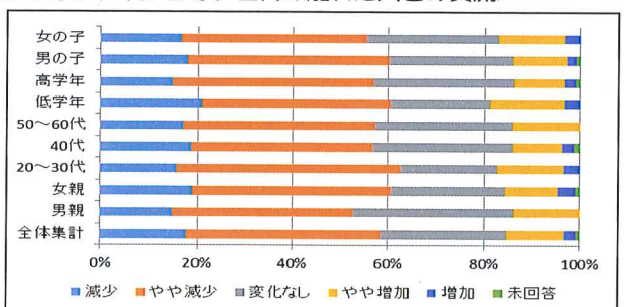
(地域のお祭りや行事への参加の機会)



(近所の人に注意されたり叱られたりすること)



(お年寄りや年少者等、世代の離れた人との交流)



アンケート項目		全体集計	男親	女親	20～30代	40代	50～60代	低学年	高学年	男の子	女の子
(4)今の子ども達に増えたこと、減ったこと											
外で遊ぶ機会や時間		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	減少	58.0%	54.5%	59.1%	45.2%	60.0%	82.9%	55.0%	59.1%	55.4%	62.8%
	やや減少	28.1%	27.7%	28.3%	35.7%	27.2%	11.4%	30.2%	26.4%	30.0%	25.5%
	変化なし	9.8%	9.9%	9.8%	13.0%	9.4%	2.9%	11.4%	10.1%	10.4%	8.3%
	やや増加	3.4%	5.9%	2.4%	5.2%	2.6%	2.9%	2.7%	4.3%	3.3%	3.4%
	増加	0.5%	2.0%	0.0%	0.9%	0.4%	0.0%	0.7%	0.0%	0.8%	0.0%
近所に楽しく遊べる 場や居場所	未回答	0.3%	0.0%	0.3%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	減少	52.6%	35.6%	58.7%	55.7%	51.1%	51.4%	51.7%	50.0%	50.4%	55.9%
	やや減少	26.5%	38.6%	22.4%	22.6%	28.5%	28.6%	23.5%	29.8%	26.7%	26.9%
	変化なし	15.7%	20.8%	13.6%	16.5%	15.3%	14.3%	18.8%	15.4%	17.5%	13.1%
	やや増加	4.1%	3.0%	4.5%	5.2%	3.8%	2.9%	5.4%	3.8%	4.6%	3.4%
自然の中で遊んで過 ごす	増加	0.3%	1.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.7%
	未回答	0.8%	1.0%	0.7%	0.0%	0.9%	2.9%	0.7%	0.5%	0.8%	0.0%
		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	減少	59.3%	59.4%	59.4%	56.5%	58.7%	74.3%	58.4%	59.6%	60.8%	57.2%
	やや減少	26.0%	28.7%	25.2%	24.3%	27.2%	22.9%	26.2%	25.0%	24.6%	28.3%
	変化なし	10.3%	10.9%	10.1%	13.0%	10.6%	0.0%	12.1%	10.6%	10.8%	9.7%
塾やおけいごとに行 く時間	やや増加	3.1%	1.0%	3.8%	6.1%	1.7%	2.9%	2.0%	4.3%	2.9%	3.4%
	増加	0.5%	0.0%	0.7%	0.0%	0.9%	0.0%	0.7%	0.5%	0.8%	0.0%
	未回答	0.8%	0.0%	0.7%	0.0%	0.9%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	1.4%
		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	減少	2.1%	2.0%	2.1%	1.7%	2.1%	2.9%	1.3%	2.4%	2.1%	2.1%
	やや減少	1.8%	1.0%	2.1%	3.5%	0.9%	2.9%	2.7%	1.4%	0.8%	3.4%
学校帰りの道草、寄 り道	変化なし	18.8%	15.8%	19.6%	25.2%	18.3%	0.0%	15.4%	21.2%	17.5%	21.4%
	やや増加	39.7%	48.5%	36.7%	41.7%	40.4%	31.4%	41.6%	39.9%	40.8%	37.9%
	増加	37.4%	32.7%	39.2%	27.8%	37.9%	62.9%	38.9%	35.1%	38.8%	35.2%
	未回答	0.3%	0.0%	0.3%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	減少	34.5%	28.7%	36.7%	28.7%	36.6%	37.1%	34.9%	32.2%	34.6%	34.5%
近所の人に注意	やや減少	29.9%	29.7%	30.1%	28.7%	29.8%	37.1%	26.2%	34.1%	29.2%	31.7%
	変化なし	32.0%	39.6%	29.4%	37.4%	30.6%	25.7%	34.2%	31.7%	32.5%	31.0%
	やや増加	2.6%	2.0%	2.8%	4.3%	2.1%	0.0%	3.4%	1.4%	3.3%	1.4%
	増加	0.3%	0.0%	0.3%	0.9%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.7%
	未回答	0.8%	0.0%	0.7%	0.0%	0.9%	0.0%	0.7%	0.5%	0.4%	0.7%
		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
1人で電車	減少	45.6%	40.6%	47.2%	39.1%	48.5%	45.7%	43.0%	46.6%	42.5%	50.3%
	やや減少	38.9%	47.5%	36.0%	44.3%	36.6%	40.0%	38.3%	40.9%	43.3%	32.4%
	変化なし	14.2%	11.9%	15.0%	14.8%	13.6%	14.3%	16.8%	12.0%	12.9%	16.6%
	やや増加	1.0%	0.0%	1.4%	1.7%	0.9%	0.0%	2.0%	0.5%	1.3%	0.7%
	増加	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	未回答	0.3%	0.0%	0.3%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
家族と一緒に食事、 団欒		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	減少	35.1%	28.7%	37.1%	34.8%	35.7%	28.6%	32.2%	38.0%	32.9%	37.9%
	やや減少	14.7%	15.8%	14.3%	18.3%	14.5%	5.7%	12.1%	16.3%	14.2%	15.9%
	変化なし	30.2%	39.6%	26.9%	26.1%	31.5%	37.1%	33.6%	28.8%	31.3%	29.0%
	やや増加	14.2%	13.9%	14.3%	12.2%	14.0%	22.9%	16.1%	13.0%	14.2%	14.5%
	増加	4.4%	2.0%	5.2%	7.0%	2.6%	5.7%	4.0%	3.4%	5.8%	2.1%
家の用事、家事手伝 い	未回答	1.5%	0.0%	2.1%	1.7%	1.7%	0.0%	2.0%	0.5%	1.7%	0.7%
		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	減少	8.0%	7.9%	8.0%	7.0%	7.7%	8.6%	8.1%	6.3%	8.8%	6.9%
	やや減少	22.9%	18.8%	24.5%	23.5%	24.3%	14.3%	22.8%	23.1%	22.9%	23.4%
	変化なし	52.3%	44.6%	54.9%	55.7%	50.6%	54.3%	53.7%	53.4%	52.5%	51.7%
	やや増加	13.4%	24.8%	9.4%	10.4%	14.0%	20.0%	13.4%	13.0%	13.3%	13.8%
親元をはなれて外泊	増加	3.1%	4.0%	2.8%	3.5%	3.0%	2.9%	2.0%	4.3%	2.5%	4.1%
	未回答	0.3%	0.0%	0.3%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	減少	9.0%	7.9%	9.4%	4.3%	11.5%	5.7%	8.7%	9.6%	10.0%	7.6%
	やや減少	38.4%	40.6%	37.8%	33.0%	40.4%	45.7%	37.6%	41.3%	38.8%	37.9%
	変化なし	40.7%	42.6%	39.9%	46.1%	37.9%	40.0%	43.6%	36.5%	40.0%	42.1%
地域の行事参加	やや増加	9.5%	6.9%	10.5%	12.2%	8.5%	8.6%	7.4%	10.6%	9.2%	10.3%
	増加	1.5%	1.0%	1.7%	3.5%	0.9%	0.0%	2.0%	1.4%	1.3%	2.1%
	未回答	0.8%	1.0%	0.7%	0.9%	0.9%	0.0%	0.7%	0.5%	0.8%	0.0%
		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	減少	7.7%	11.9%	5.9%	5.2%	6.8%	17.1%	7.4%	8.2%	5.4%	11.0%
	やや減少	25.8%	25.7%	25.9%	26.1%	26.8%	20.0%	28.2%	24.0%	27.9%	22.8%
世代のはなれた人との 交流	変化なし	37.4%	42.6%	35.7%	40.0%	37.0%	31.4%	38.3%	36.1%	35.0%	41.4%
	やや増加	21.6%	17.8%	23.1%	20.9%	21.3%	28.6%	19.5%	24.0%	25.0%	16.6%
	増加	7.0%	2.0%	8.7%	7.8%	7.2%	2.9%	6.7%	7.2%	6.3%	8.3%
	未回答	0.5%	0.0%	0.7%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.5%	0.4%	0.0%
		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	減少	11.3%	10.9%	11.5%	12.2%	11.1%	11.4%	16.8%	8.7%	8.8%	15.2%
世代のはなれた人との 交流	やや減少	32.7%	31.7%	33.2%	33.0%	32.8%	31.4%	28.9%	35.6%	35.4%	28.3%
	変化なし	37.4%	37.6%	37.4%	35.7%	39.6%	31.4%	36.9%	37.5%	39.2%	35.2%
	やや増加	14.7%	17.8%	13.6%	14.8%	13.2%	22.9%	12.8%	14.9%	13.8%	16.6%
	増加	3.4%	2.0%	3.5%	3.5%	3.0%	2.9%	4.0%	3.4%	2.9%	4.1%
	未回答	0.5%	0.0%	0.7%	0.9%	0.4%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.7%
		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
世代のはなれた人との 交流	減少	17.8%	14.9%	18.9%	15.7%	18.7%	17.1%	20.8%	14.9%	17.9%	16.6%
	やや減少	40.5%	37.6%	41.6%	47.0%	37.9%	40.0%	39.6%	41.8%	42.1%	38.6%
	変化なし	26.3%	33.7%	23.8%	20.0%	29.4%	28.6%	20.8%	29.3%	25.8%	27.6%
	やや増加	12.1%	13.9%	11.2%	13.9%	10.2%	14.3%	15.4%	10.6%	11.3%	13.8%
	増加	2.6%	0.0%	3.5%	3.5%	2.6%	0.0%	3.4%	2.4%	2.1%	3.4%
	未回答	0.8%	0.0%	1.0%	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	1.0%	0.8%	0.0%

4. 子どもは自然の中で遊ぶことや友達と遊ぶのが好き(設問 13)

子どもについてたずねたところ「自然の中で遊ぶのが好きですか」がかなりそうであるとややそうである、を足して 75.2%、特に低学年、男子にその傾向が強い。「友達とよく遊びますか」は 79.2%となっている。「正義感が強く人を助ける方ですか」は 48.1%、「何事にも積極的ですか」48.1%、「家事の手伝いをしますか」45.6%になっている。「地域の人々とふれ合う機会が多いですか」は 31.2%とあまりそうでない、そうでない、の合計 32.9%とほぼ同じになっている。

団体活動に参加している子どもは、自然の中で遊ぶのが好きであり、友達ともよく遊んでいる。しかし、親の子どもの頃と比較すると自然の中で遊ぶのは好きだが、機会はかなり減少していることがうかがえる。ある程度は家事手伝いもするし、正義感が強く、何事にも積極的という理想的な子ども像に近いが、「特にどちらでもない」「あまりそうでない」の回答者も多く、団体活動に参加している子どもたちも必ずしも正義感が強かったり、積極的であったりというわけではなく、むしろ反対の要素があるため、親が子どもたちを団体活動に参加させているという見方もあろう。

5. 約 9 割の子どもが習い事に通っている(設問 14, 15)

習い事は 93.9%の子どもが行っており「スポーツ」が一番多く 62.5%になっている。次いで、「芸術」40.0%、「学習塾」33.9%、「語学教室」19.7%、「そろばん」12.9%の順になっている。頻度は週 2 回が 30.9%、週 3 回が 27.1%で多く、ほとんどが週 1 回～4 回程度に習い事に通っている。

親の世代で見ると 20～40 代はスポーツが多く、50～60 代は学習塾が多くなっている。スポーツは男親よりも女親が 11.2 ポイント上回っている。男子が 72.9 ポイントで一番高い数値になっている。子どもたちの日々の生活がこれらの習い事の時間によって極めて多忙であり、近所の仲間と外遊びをする、あるいは自然の中で遊ぶということが日常化していない現実が伺い知れる。

現代社会に生きる子どもたちは等しく、親によって学校教育以外の学習や習い事の時間を必要とされ、多くの余暇を外遊びではなく、その他の用途に使っていることが明白になっていて、これらは団体活動に参加している者も同様である。

6. テレビは自由に見せている(設問 16)

「見せる」、「時々見せる」で 90.5%の回答があり、基本的にテレビは子どもたちにとって日常的なものであって、親の年代や子どもの学齢と関係なく必需品となっている。ただ、視聴時間の制限などは家庭によって異なるものと思われるが、上記の子どもの習い事の状況からして、子どもたちもテレビを見たくても見る時間がないというのが現実であろう。

7. 約半数の子どもが携帯用ゲームを持っており、2 割が携帯電話を持っている(設問 17)

子どもが持っているものは「携帯用ゲーム」が 45.6%、「携帯電話」21.6%、「コンピューターゲーム」16.2%の順になっている。「携帯用ゲーム」は 50～60 代の親が 57.1%、高学年が 53.8%と多く持たせている。「携帯電話」は高学年の女の子が持っている割合が高い。テレビをはじめ、デジタル化された家庭において、その影響下にあることも明白であり、それらを排除した生活を過ごすことはできない。

〈3〉保護者から見た青少年団体や活動のイメージ

1. 青少年団体は、いろんな人たちと一緒に体験活動ができるところ（設問5）

青少年団体やその活動についてのイメージは「体験を重視する活動」61.6%、「異年齢の人とともにする活動」51.0%、が過半数の保護者の認知となっており、「若いリーダーや指導者が存在する活動」30.4%、「子どもが主体的に考え行動する活動」27.8%、がそれに続いている。特に今回の対象保護者の多くを占める40代の63.0%が「体験を重視する活動」との認識を青少年団体活動に対して持っている。また「異年齢の人とともにする活動」は保護者の年齢が上がるほどその認知、関心は高くなる傾向がある。「点数評価を伴わない活動」「子どもの個性重視の活動」に関しても、50代以上の保護者はそれ以下の若い保護者以上に高い関心を示している。実際体験、多くの人との関わりという観点はすべての保護者にとっては第一の認識となっているが、個々へのアプローチを伴った活動や多様な観点からの期待、関心を熟年保護者はさらに持っているようだ。

男親、女親の差異は大きなものは見られないが「子どもの主体的な活動」（男親25.7%、女親28.7%）と「個性を重視した活動」（男親5.9%、女親3.8%）に差異が出ている。一方、そうした多様な体験活動が「若いリーダーや指導者」とともに行われ、また彼らの指導や援助を受けて展開される活動としても認知されている。これは30代以下の保護者の24.3%に対して40代33.2%、50代31.4%がより高くイメージしており、子どもに近い年齢の指導者が携わることへの関心とともに期待があるものとみられる。

青少年団体には若いリーダーがいて、子どもたちがいろんな人たちとの交流や非日常的な体験が豊かにできるところとの認識を保護者は持っている。その認知が関心となり期待となっているといえよう。

2. 非日常的な体験活動を仲間や新しい友達とさせたい～参加への保護者の期待～（設問6）

前項の青少年団体や活動へのイメージは子どもたちが参加する際の保護者の期待ともなっていた。「日常ではできない体験」が67.8%と特に高く、次いで「集団での生活や活動」38.9%、「新しい友達ができる」25.3%と続いている。「日常ではできない体験」は女親が71.7%と男親の56.4%より、さらに若い世代の保護者ほど高くなる傾向も出ている。日頃の生活ではなかなか出来ない体験への期待が大きい、集団生活や集団活動そのものが今日、非日常的な体験ともなっている。さらには、新たな友達を自ら作り広げるとなるとこれも簡単ではない昨今、こうしたことが可能な機会への参加は期待も大きいことだろう。日常の生活では得られないが大切で必要な事としての認識は参加理由の根源的なものともいえる。

「健康でたくましく育つ」「規則正しい生活やルール、マナーの習得」に関しては男親の方が顕著にそれらへの期待感が大きい。また「仕事などで親が連れていけない」7.0%は母親、特に単身の母親がそうしたことを強く感じている。フェイスシートの関連でもふれられているが今回、母子家庭の構成が22.7%と高くなっている。子どもたちのあらゆる体験活動を豊かにと願っている保護者にとって青少年団体はそれなりに頼りになる存在、ともいえるのかもしれない。

「健康でたくましく育つ」19.8%、「規則正しい生活やルール、マナーの習得」16.5%など、保護者の期待や願いは本来、家庭生活で育まれるべき事柄へも広がっている。そうした関心やニーズの背景にも問題や課題はあろうが、青少年団体が受ける期待や要望は家庭教育の補完も含め、結構、範囲が広いということだろう。ここでの課題はそれらがどう実現し、成果の実感や満足へとつながっているかということにある。また、活動内容が学習や訓練の機会でもあり有意義であることは保護者も理解するものの、子どもにとってそれが楽しみや興味ある実際や体験を伴っているかということもまた関心のあるところだろう。

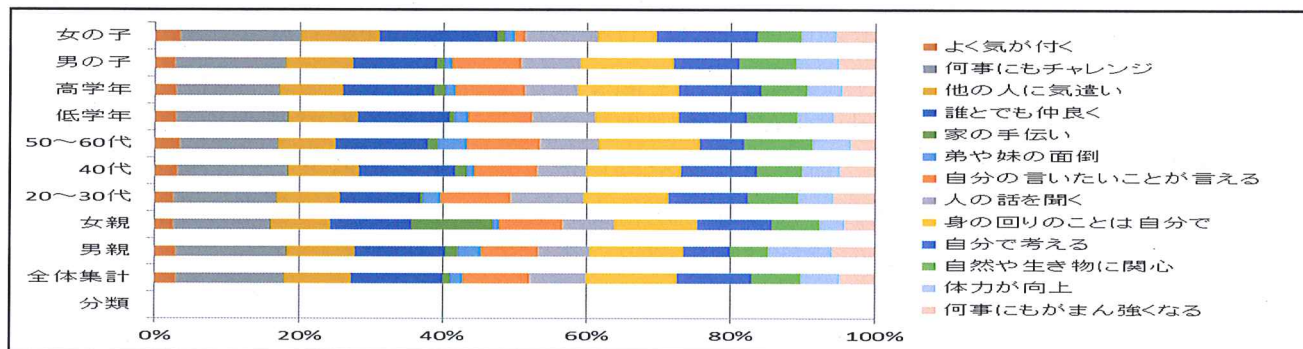
〈4〉親の期待と子どもの変化について

1. 親の団体活動への期待は、「チャレンジ精神」「自立」「協調性」の三本柱(設問7)

全体では、「何事にもチャレンジするようになる」が 62.1%、「自分の身の回りの事は自分でやるようになる」が 53.4%、「誰とでも仲良くできるようになる」が 52.8%であった。「しっかりと自分で考えるようになる」42.8%が続く、残る設問は全て 40%以下であった。「家の手伝いをするようになる」4.6%、「弟や妹の面倒を見るようになる」7.2%、「よく気がつくようになる」11.9%が下位の 3 項目となっている。男親と女親での違いを見ると、順位は変わらず、パーセンテージにも大きな違いはなかったが、4 位以下の項目については、男親と女親とでは差が見られる。中でも「しっかりと自分で考えるようになる」は、女親では 48.3%、男親では 26.7%と、女親の方が 21.6%も高かったのは大きな特徴であった。一方で男親の関心では「体力が向上し、健康になる」が 36.6%と女親 16.8%と比較して 19.8%も高かった。これは母性と父性の違いを表している現象であろうか。今回の調査で特徴的なことは、父子家庭(6.9%)、母子家庭(22.7%)、両親がいない家庭(1.5%)で、合計すると全体の 31.1%を占めていることである。単身赴任などの事情も含まれると思われるが、父子家庭の親は、「何事にもチャレンジするようになる」73.5%と突出して高い割合となっている。男親平均の 62.4%と比較しても 11.1%も高い。「しっかりと自分で考えるようになる」は、父子家庭の男親では 38.2%であり、男親平均の 31.7%よりも高くなっている。

母子家庭の女親の場合では、「何事にもチャレンジするようになる」が 56.0%と女親平均の 61.9%と比較しても 5.9%低い。一方で「しっかりと自分で考えるようになる」50.0%と「誰とでも仲良く」50.0%が同数であった。「しっかりと自分の言いたいことが言えるようになる」は 48.3%であり女親平均の 40.9%と比べても割合が高くなっている。

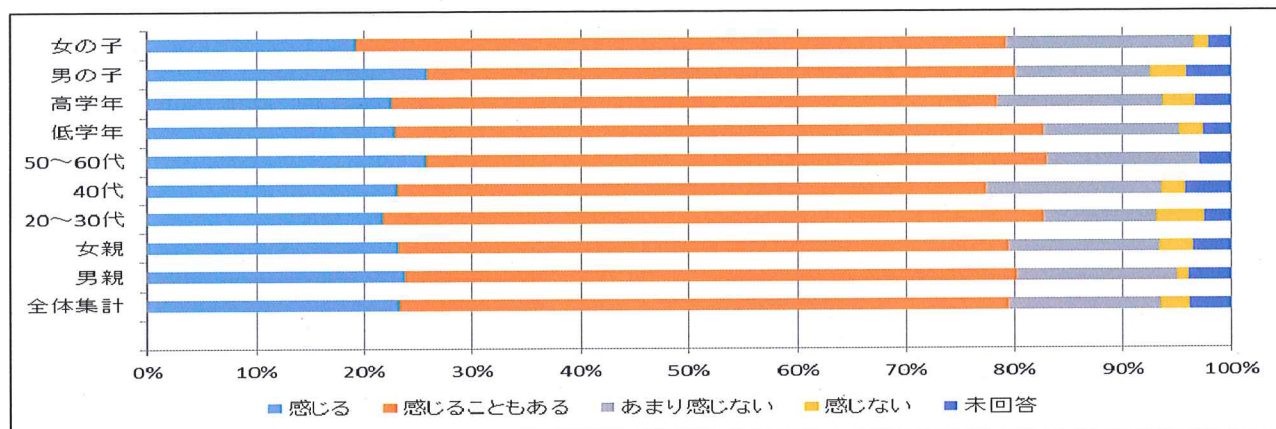
ひとり親家庭においては、「しっかりと自分で考えるようになる」「言いたいことが言える」ようになることを子どもに期待していると思われる。その一方で、「自分の身の回りのことは自分でやるようになる」53.4%に対して、父子家庭の男親 44.1%、母子家庭の母親 44.0%と低くなっていることは積極的な態度を身に付けて欲しいことが伺われる。



アンケート項目	全体集計	男親	女親	20~30代	40代	50~60代	低学年	高学年	男の子	女の子
(7)活動で子どもにどんな変化を期待										
よく気が付く	11.9%	11.9%	11.9%	10.4%	12.3%	14.3%	12.1%	11.5%	11.3%	12.4%
何事にもチャレンジ	62.1%	62.4%	61.9%	60.0%	63.4%	57.1%	67.1%	58.7%	63.3%	60.7%
他の人に気遣い	39.2%	39.6%	39.2%	37.4%	41.3%	34.3%	41.6%	37.0%	39.2%	40.0%
誰とでも仲良く	52.8%	51.5%	53.1%	47.0%	55.3%	54.3%	55.0%	52.4%	48.3%	60.0%
家の手伝い	4.6%	6.9%	53.1%	1.7%	6.0%	5.7%	2.7%	6.3%	4.6%	4.1%
弟や妹の面倒	7.2%	13.9%	3.8%	10.4%	4.3%	17.1%	8.1%	6.3%	4.6%	4.8%
自分の言いたいことが言える	38.7%	31.7%	40.9%	40.9%	36.6%	42.9%	38.9%	39.4%	39.6%	4.8%
人の話を聞く	32.5%	29.7%	33.6%	42.6%	27.7%	34.3%	36.9%	30.3%	34.2%	37.2%
身の回りのことは自分で	53.4%	53.5%	53.5%	49.6%	54.5%	60.0%	50.3%	58.2%	54.2%	29.7%
自分で考える	42.8%	26.7%	48.3%	46.1%	43.8%	25.7%	40.3%	46.6%	37.9%	51.0%
自然や生き物に関心	28.4%	20.8%	30.8%	29.6%	25.5%	40.0%	30.2%	26.0%	32.5%	22.1%
体力が向上	21.9%	36.6%	16.8%	20.9%	21.7%	22.9%	22.1%	20.2%	24.2%	17.9%
何事にもがまん強くなる	20.9%	24.8%	19.6%	24.3%	20.4%	14.3%	24.8%	19.2%	21.7%	20.0%

2. 青少年団体の活動に参加しているこどもの80%が変化している(設問8)

「感じることもある」と答えた親は、56.2%であり「感じる」23.2%と答えた親を含めると79.4%の方々が行動や様子などに変化を感じていると答えている。これらの数値から見ると青少年団体の活動に参加している子どもの約80%が変化していることから青少年団体の活動の評価は高いと思われる。



アンケート項目	全体集計	男親	女親	20～30代	40代	50～60代	低学年	高学年	男の子	女の子
(8)活動に参加して子どもの様子に変化	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
感じる	23.2%	23.8%	23.1%	21.7%	23.0%	25.7%	22.8%	22.6%	25.8%	19.3%
感じることもある	56.2%	56.4%	56.3%	60.9%	54.5%	57.1%	59.7%	55.8%	54.2%	60.0%
あまり感じない	14.2%	14.9%	14.0%	10.4%	16.2%	14.3%	12.8%	15.4%	12.5%	17.2%
感じない	2.6%	1.0%	3.1%	4.3%	2.1%	0.0%	2.0%	2.9%	3.3%	1.4%
未回答	3.9%	4.0%	3.5%	2.6%	4.3%	2.9%	2.7%	3.4%	4.2%	2.1%

3. 青少年団体の活動には積極的に参加している(設問9)

積極的に参加していると答えた親は、74.7%、特に女親では76.2%、50～60代の親では82.9%、低学年では80.5%、男の子では76.7%と高くなっており、青少年団体の活動に積極的に参加していることが伺える。

一方で、活動に積極的に参加していないと答えた25%の子どもたちについてはその原因も探りつつ、何らかの対策を青少年団体としても考える必要がある。

4. 青少年団体の活動に参加することで学校以外の友達ができる(設問10)

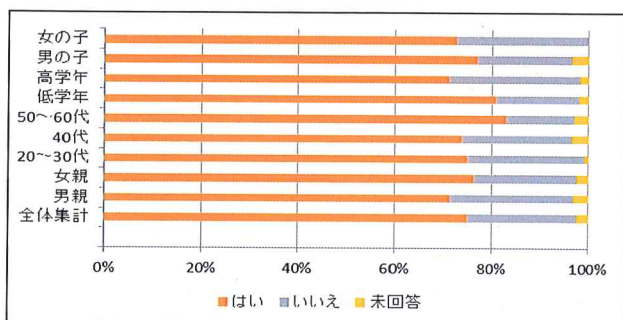
63.1%の子どもたちが学校以外の友達ができていることが分かった。青少年団体の活動に参加することで新しい友達を見つけ、大人になってからも付き合える心を許せる友達は大きな財産になると思われる。

女子(66.2%)、高学年(66.8%)、親の50～60代(68.6%)が高い数値を示していることから異年齢での体験活動や継続的な活動参加により、より親密度が増すものと思われる。

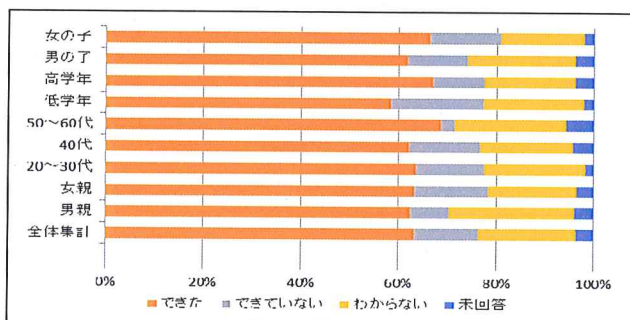
5. 団体活動に参加することで親子のコミュニケーションが増す(設問 11)

「子どもから積極的に話す」と答えた親は、33.8%、「活動の内容によってはよく話すこともある」38.1%、「親が聞くと話す」21.1%であり、親子で活動の話をする率としては、93%の子どもが何らかの形で親とのコミュニケーションを図っていることが分かる。親子ともども活動の話を通じてのコミュニケーションを図ることで、さらに親子の絆が増すことが期待できる。また、活動に「積極的に参加している」と回答した人で、子どもの行動や様子に変化を「感じる」と回答した人は29.7%、「感じることもある」が60.3%で、合わせて90%が変化を感じると回答している。子どもが積極的に参加している場合は、ほとんどの親が子どもの成長や変化を感じているようである。

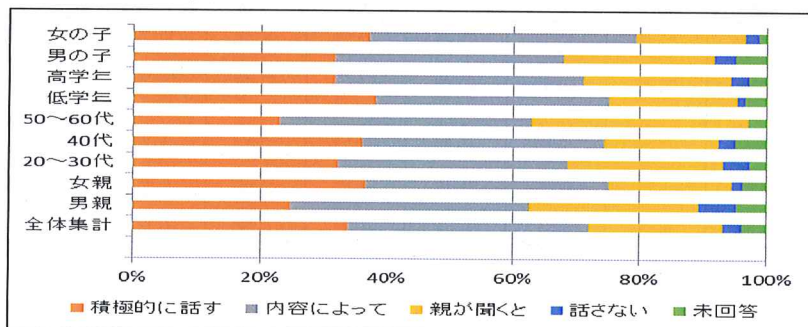
(活動に積極的に参加しますか)



(学校以外に友達ができましたか)



(活動の話をしますか)



アンケート項目	全体集計	男親	女親	20~30代	40代	50~60代	低学年	高学年	男の子	女の子
(9)活動に積極的に参加しますか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
はい	74.7%	71.3%	76.2%	74.8%	73.6%	82.9%	80.5%	71.2%	76.7%	72.4%
いいえ	22.7%	25.7%	21.3%	24.3%	23.0%	14.3%	17.4%	26.9%	20.0%	27.6%
未回答	2.6%	3.0%	2.4%	0.9%	3.4%	2.9%	2.0%	1.9%	3.3%	0.0%
(10)学校以外に友達ができましたか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
できた	63.1%	62.4%	63.3%	63.5%	62.1%	68.6%	58.4%	66.8%	61.7%	66.2%
できていない	13.1%	7.9%	15.0%	13.9%	14.5%	2.9%	18.8%	10.6%	12.5%	14.5%
わからない	20.1%	25.7%	18.2%	20.9%	19.1%	22.9%	20.8%	18.8%	22.1%	17.2%
未回答	3.6%	4.0%	3.5%	1.7%	4.3%	5.7%	2.0%	3.8%	3.8%	2.1%
(11)活動の話をしますか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
積極的に話す	33.8%	24.8%	36.7%	32.2%	36.2%	22.9%	38.3%	31.7%	31.7%	37.2%
内容によって	38.1%	37.6%	38.5%	36.5%	38.3%	40.0%	36.9%	39.4%	36.3%	42.1%
親が聞くと	21.1%	26.7%	19.2%	24.3%	17.0%	34.3%	20.1%	23.1%	23.8%	17.2%
話さない	2.8%	5.9%	1.7%	4.3%	2.6%	0.0%	1.3%	2.9%	3.3%	2.1%
未回答	4.1%	5.0%	3.8%	2.6%	5.1%	2.9%	3.4%	2.9%	5.0%	1.4%

6. 青少年団体に期待している活動は「キャンプ」、「冒険活動」、「国際交流」（設問 12）

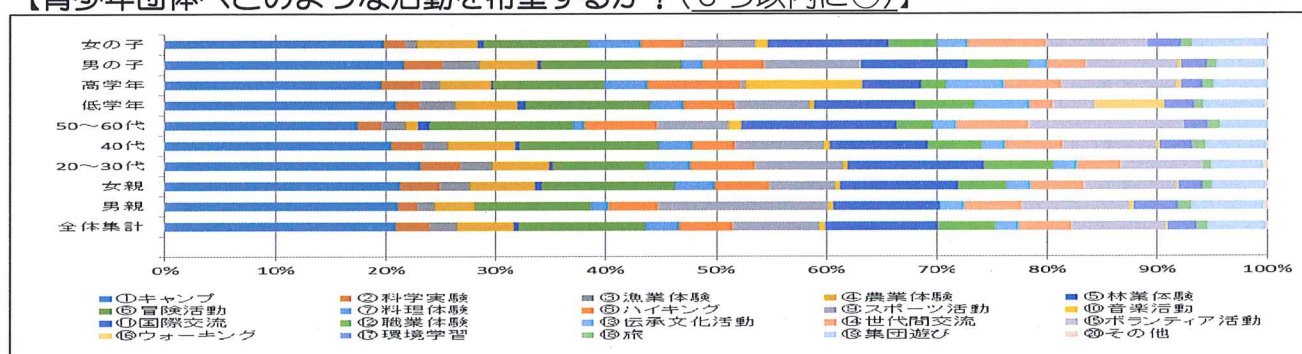
56.4%の親が「キャンプ」を希望している。続いて「冒険活動」30.9%、「国際交流」27.6%「ボランティア活動」23.5%、「スポーツ活動」21.6%である。女親では、「農業体験」16.4%、「ハイキング」13.6%、「世代間交流」13.3%と希望する活動がかなり分散している。一方男親では「スポーツ活動」37.6%、「集団遊び」15.8%、「世代間交流」12.9%、「ハイキング」10.9%と女親とは少し違う活動を希望している。

親の年代別で比較してみると、「キャンプ」は、20～30代の親の希望が61.7%と一番高く「冒険活動」「国際交流」「ボランティア活動」では50～60代の親が34.3%、37.1%、37.1%と一番高い希望率であった。「スポーツ活動」は40代の親が22.1%と一番高く、50～60代の親では17.1%と20%を割っており、親の年代により差が大きいようである。

母子家庭では、「キャンプ」の希望が高く59.5%の親が希望している。「冒険活動」32.1%、「国際交流」25.6%と続くが、「農業体験」23.8%となっている。「農業体験」は女親では16.4%であり、7.4ポイント高くなっている。父子家庭では、「キャンプ」の希望が最も高く52.9%となっているが、スポーツ活動32.4%に続いて「ボランティア活動」が29.4%と、男親では「冒険活動」25.7%より高くなっている。

やはり、非日常的な体験をさせることで精神的にも社会的にも体で覚える「キャンプ」「冒険活動」や国際社会を意識する現代社会を反映して「国際交流」が今後の活動の中心となるであろう。

【青少年団体へどのような活動を希望するか？（3つ以内に○）】



アンケート項目	全体集計	男親	女親	20～30代	40代	50～60代	低学年	高学年	男の子	女の子
①キャンプ	56.4%	51.5%	58.0%	61.7%	54.9%	45.7%	59.7%	53.8%	58.3%	53.8%
②科学実験	8.0%	4.0%	9.4%	9.6%	7.7%	5.7%	6.0%	9.6%	9.6%	5.5%
③漁業体験	6.7%	4.0%	7.7%	7.8%	6.4%	5.7%	9.4%	4.8%	9.2%	2.8%
④農業体験	14.4%	8.9%	16.4%	13.9%	16.6%	2.9%	16.1%	13.0%	14.2%	15.2%
⑤林業体験	1.0%	0.0%	1.4%	0.9%	0.9%	2.9%	2.0%	0.5%	0.8%	1.4%
⑥冒険活動	30.9%	25.7%	32.9%	22.6%	34.0%	34.3%	32.2%	27.9%	34.2%	26.2%
⑦料理体験	8.2%	4.0%	9.8%	10.4%	8.1%	2.9%	8.7%	10.6%	5.4%	13.1%
⑧ハイキング	12.9%	10.9%	13.6%	15.7%	10.2%	17.1%	13.4%	23.1%	14.6%	10.3%
⑨スポーツ活動	21.6%	37.6%	16.1%	21.7%	22.1%	17.1%	19.5%	1.4%	23.8%	17.9%
⑩音楽活動	1.3%	1.0%	1.4%	0.9%	1.3%	2.9%	1.3%	29.3%	0.4%	2.8%
⑪国際交流	27.6%	23.8%	29.0%	33.0%	23.8%	37.1%	26.2%	14.4%	25.8%	30.3%
⑫職業体験	13.7%	0.0%	11.9%	16.5%	13.2%	8.6%	14.8%	6.3%	15.0%	11.7%
⑬伝承文化活動	5.7%	5.0%	5.9%	6.1%	5.5%	5.7%	14.8%	14.4%	4.6%	7.6%
⑭世代間交流	13.1%	12.9%	13.3%	10.4%	14.0%	17.1%	6.0%	14.4%	9.6%	19.3%
⑮ボランティア活動	23.5%	23.8%	23.1%	20.0%	23.0%	37.1%	10.7%	28.8%	22.5%	25.5%
⑯ウォーキング	0.5%	1.0%	0.3%	0.0%	0.9%	0.0%	18.1%	1.0%	0.8%	0.0%
⑰環境学習	7.0%	9.9%	5.9%	0.0%	8.1%	5.7%	8.1%	5.3%	6.3%	8.3%
⑱旅	2.6%	3.0%	2.4%	1.7%	3.0%	2.9%	2.0%	2.9%	2.5%	2.8%
⑲集団遊び	14.2%	15.8%	13.3%	13.0%	14.9%	11.4%	16.1%	13.5%	11.7%	18.6%
⑳その他	0.5%	1.0%	0.3%	0.9%	0.4%	0.0%	0.7%	0.0%	0.8%	0.0%

〈5〉他の調査との比較から

子どもたちの「体験活動」の場が減少していることは様々なデータでも表れているが、特に自然体験活動への参加が減少していて、自然体験をほとんどしたことのない小・中学生の割合が増加している。例をあげると、平成10年と21年とを比較して「大きな木に登ったことがない」(30.2→52.0%)「キャンプをしたことがない」(38.2→57%)「チョウやトンボ、バッタなどの昆虫を捕まえたことがない」(18.7→41.0%)と調査結果(平成25年度版子ども若者白書<内閣府>)も示している通り、大きな体験の場の喪失をあげている。本協議会の調査においても同様の認識が示され、それは親としてのある危機意識であり、団体活動参加への強い動機になっていると思われる。

また、内閣府調査で示された「体験活動が豊富なほど、意欲や関心、規範意識が高い人が多い」という結果についても、本協議会の調査においても同様の認識が得られている。2012年に行われた博報堂生活総合研究所の「子ども調査」(小学4年～中学2年)によると2000年前後に生まれた「アラウンド・ゼロ世代」の特徴として8つのポイントがあげられているが、その一つとして「友達よりも家族。家族の求心力が高まっている」ことを挙げている。この調査によると家庭において一人でいるより家族と過ごすことが好き、という意識が強く、家族との親密さが増している結果を示している。また、子どもの学びの場としては「学校」を楽しむ傾向が高まり、「塾」に通う子どもは減少しているとしている。ただ、遊びの場はやはり「テレビゲーム」が主体で「家の中」志向が増加している。これらの子ども調査には本協議会の調査結果とも相通じる結果があり、全国的な子どもの状況が示されていると思われる。

またベネッセ教育総合研究所の「第2回子ども生活実態基本調査」における携帯電話やゲームの所有実態によると、2004年と2009年比較で小学生は4人に1人(18.9%→26.2%)、中学生は半数(45.3%→50.1%)が携帯電話を所持するようになっている。また、コンピューターゲームにおいても、「ほとんどしない」という子どもが減少し、女子では「ほとんどしない」が小学生で35.5%から26.0%に、中学生で55.0%から34.8%に減少している。

これらの他の調査と照らし合わせても本協議会による今回の調査が現代社会に生きる子どもたちの現状を親の目を通し、親の認識からしても特異なことではなく、一般的に認識されている子ども像であると思われる。しかし、青少年団体の活動に参加させている親の意識としては、認識している子どもの課題の故に、より体験活動の場を多く与え、自然体験、社会体験、人間関係の体験を与えたいとするものであることが読み取れる。団体活動を経験していない子どもたちと直接比較するデータがないが、その点において恐らく若干の違いは現れるのではないと思われる。しかしながら、現代の子どもたちの置かれている状況は、団体活動参加の有無に関わらず、等しいものである。自然体験の場が失われ、習い事のために(それは学習塾であれスポーツクラブであれ)外遊びの時間が失われていること。また、家庭の中で小さく過ごしてしまう時間、それも携帯ゲームやテレビゲームで遊ぶ環境に置かれていることは間違いのないことである。だからこそその団体の存在であり、団体活動の機会であると思われる。多くの子どもたちにそのような体験の場が与えられることを期待したい。

提 言

1. 青少年の置かれている社会、くらしの現状を正しく理解し、団体活動を推進しよう

調査結果では、団体活動に参加させている子ども、親の現状が示された。そこには団体活動に参加していてもいなくても変わらない現代世相が現れていた。しかし、団体活動に参加している子ども、参加させている親の状況として、現代社会の問題があるから、団体活動に参加させているという親の思いが感じられた。各団体においては、そのことに自信を持つべきだと思われる。各団体の活動はその観点から大きな現代的意味を持つものであり、時代に迎合することなく、それぞれの団体のミッションに基づく遊びや野外活動等の活動を展開していくべきである。そして、活動プログラムが参加する子ども一人ひとりにあった対応がなされているのか、また社会の状況や環境を踏まえた形で取り組んでいるのか、評価と検証がなされることが求められる。

2. 活動が目指すもの求めるものを明らかにし、学校や親の理解を積極的に求め共有しよう

団体のミッションやプログラムの目的を親にしっかりと伝え、理解を得ているのかをチェックする必要がある。その結果、表記の仕方や伝え方に工夫をし、配付はもちろん機会をとらえ、話し合い、学校関係、教育委員会や校長のみならず、教員にも理解してもらえるよう努める必要がある。

また、実践されているあらゆる体験活動を検証し、その成果や効果ができるだけ日常化、習慣化できるような工夫や方策を心がけ、親や教育関係者、地域社会に目に見えるよう具体的に取組もう。

3. 家族を巻き込んだ活動を試みよう。

調査結果でもわかるように、若い親は自分自身の体験が少なくなっている。そこで、忙しい親も時には一緒に参加し、家族でそろって楽しめる機会の工夫も行ってみよう。

4. 多様で個性的な青少年の状況に応じたリーダーシップを身につけよう

個々の青少年の成長また状況に配慮し対応できるリーダーシップが求められている。今日的現象である「いじめ、引きこもり、ネット症候群」等をはじめ、認識を十分に深めるとともに、指導者として常に資質向上に努めなければならない。また、団体としてもその機会を設けなければならない。

5. 団体活動と地域活動の連携を！

子どもたちが地域の中でお年寄りや大人たちと交わり、活動することが減っている。団体が時には地域の自治会、子ども会、その他の団体と協働して、子どもたちを地域の祭り、防犯防災活動、季節行事などに参加・参画の場面をつくり、子どもたちと地域のつながりが深まるよう取り組むことが大切である。

また、本来、地域に子どもが安心して過ごすことのできる場所があるはずである。しかし、治安の課題等があり困難な状況である。そこで、それを補う人材を探してみよう。人材は豊富である。本来は秘密基地や隠れ家等子どもの世界だけの居場所が一番良いのだが、そうした社会づくりの過程として大人が提供し、子どもが自由に過ごすことのできる居場所を作ろう。

6. バーチャルな時代にリアルな体験を

子どもたちの遊びの世界にデジタル機器やIT関連機器が侵食している。この傾向は容易に押し留めることができない。これらの機器を活動に取り込むことは考えられるが、青少年団体の方法論からは俄かになじまないし、むしろ阻害することになろう。団体ができること、すべきことは、これらの機器、特にテレビゲームや携帯・スマホよりも楽しく、時を忘れるような「子どもの遊びの世界」を展開する以外にない。野外活動はその意味で、子どもたちを逆に現実社会から隔離し、非日常を創り出すことができるため、各団体にとっては比較的容易である。各団体のプログラムにデジタル機器を導入することが不必要ということではないが、この巨大なサービスに対抗できる「楽しさ」の創出に英知を傾けなければならない。

7. 青少年団体活動で「チャレンジ精神」「自立」「協調性」を身につけよう

私たちは大自然と呼ばれる偉大な自然の中に身を置くと、自然の力に圧倒される。子どもたちにもそのような自然体験が与えられることが望まれる。中途半端な自然の体験は設定するのに容易であり、至便ではあるが、プログラムではなく自然そのものが子どもたちに大きなインパクトを与えるものとしては、大自然の体験の場を提供することが期待される。海であれ、山であれ、川であれ、豊かな自然の中に子どもたちを誘うことをぜひ考えたい。

兵庫県青少年団体連絡協議会 2013 年度調査委員会委員

- | | |
|---------|--|
| 速水順一郎 | (一社)兵庫県子ども会連合会常務理事・事務局長
兵庫県青少年団体連絡協議会会長 |
| 清水 勲 夫 | (一財)野外活動協会(OAA)専務理事
兵庫県青少年団体連絡協議会副会長 |
| 水 野 雄 二 | (公財)神戸YMCA総主事
兵庫県青少年団体連絡協議会副会長 |
| 南 秀 生 | 日本ボーイスカウト兵庫連盟事務局長
兵庫県青少年団体連絡協議会監事 |
| 寺 内 真 子 | (公財)神戸YWCA総幹事
兵庫県青少年団体連絡協議会運営委員 |

青少年団体活動に関する 親の意識調査

実施：兵庫県青少年団体連絡協議会 2013 年度調査

アンケートにお答えいただく皆様へ

この調査は、青少年団体にお子さんが加入している親、及び年に数回か青少年団体が実施する事業にお子さんを参加させている親の皆様を対象に実施するものです。親がどのような意識で、またどのような期待をもってお子さんを青少年団体の主催する活動に参加させているかについて調査し、子どもたちの体験活動の今後に向けて、更に推進していくことを目的としています。

この調査は、公益財団法人兵庫県青少年本部からの委託を受け、兵庫県青少年団体連絡協議会が実施します。

アンケートは統計的に処理され、個々のデータに関しては一切公表されることはありませんのでぜひ、ご協力をお願いします。

青少年団体とは

一つの理念を持って、子どもや若者を対象に継続的に活動やプログラムを実施し、それらを通して青少年の社会性や人格の形成に取り組む団体です。

この調査を実施する兵庫県青少年団体連絡協議会は県下を網羅する22の青少年団体で構成され、公益財団法人兵庫県青少年本部に事務局を置き、活動を展開しています。

◇下記の要領でご記入をお願いします

- ・各設問にある解答選択項目の番号に○印をつけてください。
- ・設問によっては複数選んでいただくものがあります。指示に従ってお答えください。
- ・人数の問いには数字で人数をお書きください。
- ・「その他」などの自由記述欄には問いに対するご意見を簡潔にお書きください。
- ・複数のお子さんが該当する場合は、どなたかお一人についてお答えください。

(1) あなたについておたずねします

1-1 性別 ①男 ②女

1-2 年齢 ①20歳代 ②30歳代 ③40歳代 ④50歳代 ⑤60歳以上

1-3 市町 _____ 市・町

1-4 同居者 (お子さんの立場からの同居者です)

①父 ②母 ③祖父 ④祖母

⑤兄弟姉妹(男 人 女 人) ⑥その他 _____ 人

1-5 お子さんの性別 ①男 ②女

1-6 お子さんの学年 ①1年生 ②2年生 ③3年生 ④4年生 ⑤5年生 ⑥6年生

(2) お子さんとはよく話をしますか？

①よく話をする ②まあまあ話をする ③時々話をする ④あまり話をしない

⑤ほとんど話をしない

(3) お子さんが将来なりたい職業は？

①知っている それは何 _____ ②知らない

(4) 子どもを取り巻く環境で、あなたの子どもの頃と比べ、今の子どもたちに増えたこと、減ったこと(体験・機会)はどのようなことでしょうか？

(あてはまると思われる枠内に○印をつけてください)

	①減少	②やや減少	③変化なし	④やや増加	⑤増加
4-1 外で遊ぶ機会や時間					
4-2 近所で楽しく遊べる場や居場所					
4-3 自然の中で遊んで過ごすこと					
4-4 塾やおけいこごとに行く時間					
4-5 学校帰りの道草、寄り道					
4-6 近所の人に注意されたり叱られたりすること					
4-7 一人で電車、バスに乗って出かける機会					
4-8 家族と一緒に食事、団欒の機会					
4-9 家の用事、家事の手伝いをする					
4-10 親元を離れての外泊や生活の機会					
4-11 地域のお祭りや行事への参加の機会					
4-12 お年寄りや年少者等、世代の離れた人との交流					

(5) 青少年団体やその活動についてどのようなイメージをお持ちですか？

(特にあてはまると思うもの2つ以内に○印をつけてください)

①異年齢の人たちと一緒に過ごす活動である

②体験を重視している活動である

③子ども自らが主体となって考え行動する活動である

④点数評価といったものを伴わない活動である

⑤子ども一人一人に合わせた個性を重視した活動である

⑥若いリーダーや指導者がいる活動である

⑦その他 ()

(6) 青少年団体が実施する事業に参加させる時にどんな思いや期待をお持ちですか？

(特にあてはまるもの2つ以内に○印をつけてください)

- ①健康でたくましく育つ
- ②日常の生活ではできないいろいろな体験ができる
- ③仕事等の都合で、親が連れていけない
- ④団体や指導者、また活動内容など、安心して参加させられる
- ⑤新しい友だちができたり広がる
- ⑥集団で生活したり活動することができる
- ⑦規則正しく生活できたりルールやマナーを身につけられる
- ⑧その他 ()

(7) 青少年団体の活動を通して、子どもにどのような変化(成長)を期待しますか？

(あてはまるもの5つ以内に○印をつけてください)

- ①よく気が付くようになる
- ②何事にもチャレンジするようになる
- ③他の人に気遣いができるようになる
- ④誰とでも仲良くできるようになる
- ⑤家の手伝いをするようになる
- ⑥弟や妹の面倒を見るようになる
- ⑦しっかりと自分の言いたいことが言えるようになる
- ⑧人の話を聞くようになる
- ⑨自分の身の回りの事は自分でやるようになる
- ⑩しっかりと自分で考えるようになる
- ⑪自然や生き物などに関心を持つようになる
- ⑫体力が向上し、健康になる
- ⑬何事にもがまん強くなる

(8) 青少年団体の活動に参加して、お子さんの行動や様子などに変化を感じますか？

- ①感じる ②感じることもある ③あまり感じない ④感じない

(9) お子さんは青少年団体の活動には積極的に参加していますか？

- ①はい ②いいえ

(10) お子さんに学校以外の友達ができましたか？

- ①できた ②できていない ③わからない

(11) 活動に参加して帰った後、活動の話をしますか？

- ①子どもから積極的に話す ②活動の内容によってはよく話すこともある
- ③親が聞くと話す ④あまり話さない

(12) 青少年団体では、どのような活動を希望しますか？

(あてはまるもの3つ以内に○印をつけてください)

- ①キャンプ ②科学実験 ③漁業体験 ④農業体験 ⑤林業体験
- ⑥冒険活動 ⑦料理体験 ⑧ハイキング ⑨スポーツ活動 ⑩音楽活動
- ⑪国際交流 ⑫職業体験 ⑬伝承文化活動 ⑭世代間交流 ⑮ボランティア活動
- ⑯ウォーキング ⑰環境学習 ⑱旅 ⑲集団遊び
- ⑳その他 ()

- (13) お子さんの状況についておたずねします。
(あてはまると思われる枠内に○印をつけてください)

	①かなりそ うである	②ややそ うである	③特にどち らでもない	④あまりそ うでない	⑤そうでは ない
13-1 自然の中で遊ぶことが好きですか					
13-2 友達とよく遊びますか					
13-3 家事の手伝いをしますか					
13-4 地域の人々とふれ合う機会が多いですか					
13-5 正義感が強く人を助ける方ですか					
13-6 何事にも積極的ですか					

- (14) お子さんをどのような習い事に行かせていますか？

(あてはまるものすべてに○印をつけてください)

- ①学習塾 ②語学教室 ③スポーツ ④そろばん ⑤芸術(習字・音楽・絵画等)
⑥その他() ⑦行かせていない

- (15) 習い事はどれくらいの頻度で行っていますか?

- ①行かせているのは週（ ）回

- (16) お子さんにテレビを自由に見せますか?

- ①見せる ②時々見せる ③見せない

- (17) お子さんは個人用の何を持っていますか?

(あてはまるものすべてに○印をつけてください)

- ①パソコン ②携帯電話 ③携帯用ゲーム ④テレビ ⑤コンピューターゲーム

- (18) 以下は兵庫県青少年団体連絡協議会に参加している団体です。名前あるいは活動等について、ご存知の団体すべてに○印を付けてください。

- ①兵庫県こども会連合会
②日本ボーイスカウト兵庫連盟
③ガールスカウト兵庫県連盟
④野外活動協会（ＯＡＡ）
⑤神戸ＹＭＣＡ
⑥神戸ＹＷＣＡ
⑦兵庫県青年洋上大学同窓会
⑧兵庫県少林寺拳法連盟
⑨兵庫県世界青年友の会
⑩兵庫県モラロジー青少年団体連絡協議会
⑪日本赤十字兵庫県支部
⑫兵庫県ユースホステル協会
⑬神戸青年会議所
⑭兵庫県スポーツ少年団
⑮日本青年会議所近畿地区兵庫ブロック協議会
⑯兵庫県連合青年団
⑰兵庫県ＢＢＳ連盟
⑱兵庫県青年国際交流機構
⑲兵庫県商工会青年部連合会
⑳神戸市少年団
㉑神戸フットボールクラブ
㉒兵庫県緑の少年団連盟

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

兵庫県青少年団体連絡協議会

〒650-0011 神戸市中央区下山手通4丁目16-3

兵庫県民会館8階

公益財団法人 兵庫県青少年本部 活動支援部 内

☎ 078 (891) 7410

